関西版

島ネット

大阪支社
〒550-0044
大阪市西区靱
1丁目15－
電話・
FAX・

共栄 設備部門設置の狙いと展望

設備部長に聞く

各拠点の設備投資をバックアップ

共栄 [illegible]

の外壁などの改修を実施した。生産工程のボトルネックを解消するとともに、職場環境の改善を図っている。投資額は2件合計で約6千万円。

同社は、造管機で406.4ミリ径までの中径管を生産するとともに、プレス機では2尺までの大径管を生産している。造管機の下工程では800トンプレス機で仕上げ成形をしているが、老朽化や能力不足で加工スピードが遅く生産上のボトルネックとなっていた。そこで3月下旬に油圧ポンプの容量を増やし能力不足を解消。今後増加が見込まれる半導体、プラント関連の需要に対応できる体制を整えた。沖社長は「仕上げの加工速度は体感で従

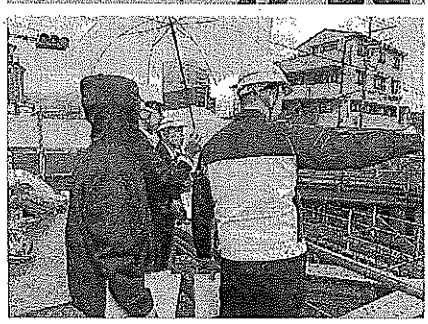
外壁を黒色で一新した本社事務所

同社は1968年に現在の大阪府堺市に本社と工場を移転。92年に現在の本社事務所を建設した。30年以上が経過し老朽化が進んでいる箇所もあるため、回全面的に改修した。従来の外壁を残しガルバリウム鋼板で覆うカバー工法で4月に完工。従来の外壁とガルバリウム鋼板の外壁材との間に断熱材を入れ庫調整が昨年末に完了し、3月ごろから上向いている。不透明感はまだ残るものの、今期は前期を上回るレベルを目指したい」とする。

豊和スチール 若手育成強化へ研修拡充

工場・現場見学で知見拡大 横のつながり強化

重仮設資材のリース、販売、工事を手掛ける豊和スチール（本社・大阪市西区、社長・宮ノ腰孝雄氏）は、次世代人材の定着と組織力強化に向け、若手人材の採用と教育・育成体制の強化を進めている。昨年から今年にかけて、本社や四国支店（愛媛県今治市）などで中途採用を実施。社内の若返り化と営業力強化を図っている。人材育成では、同社工場や実際の工事現場



社内外の工場や倉庫を見学㊤、京都府内の工事現場で知見を深める

に加え、鋼材倉庫や加工場などを見学する研修を積極的に実施。現場理解を深めるとともに、拠点を超えた社内連携の強化につなげている。昨年9月には広島・四国方面で研修を実施し、本社、東京支店、四国支店から計5人が参加。同社の広島・四国各工場のほか重仮設大手のヒロセやジェコス、さらに豊和スチールとパラミックス工法で協力関係にある日本ジュウキケンセツの工場などを見学した。

今年4月には本社研修として、関西工場（京都府亀岡市）や京都府内の工事現場を訪問。さらに鋼材流通のダイサンや阪和流通センター大阪も見学し、多様な鋼材や加工現場への理解を深めた。

宮ノ腰社長は研修の狙いについて、「普段は拠点間でコミュニケーションを取る機会が限られるからこそ、若手同士の連携を深めてもらうことが目的」と説明。「私自身も運転手として同行したが、移動中や懇親会を通じて、それぞれの個性や考え方を知ることができた」と振り返る。

その上で、「若手同士の横のつながりや連帯感を持つ良い機会になった。仲間意識を高め、時には切磋琢磨しながら会社に定着してもらいたい」と語り、今後も継続的に研修を実施していく考えを示した。

中外炉工業 今期連結受注残高は360億円

鉄鋼・非鉄金属加熱炉や熱処理炉などを手掛ける工業炉メーカー、中外炉工業（本社・大阪市中央区、社長・阪田守氏）は今年度、機能材熱処理設備、太陽電池関連設備、製鉄会社向け燃焼システムなどの受注により、連結の受注残高は引き続き高水準の360億円を確保できる見通し。このほど26年3月期決算発表会見を開き、阪田社長は「現状、中東

関西

「世代間交流て

れで分かったような気になってしまう」と現状を冷静に見る。

知識として知っていることと、実際に仕事としてできることは別物。櫻井社長は「人間としての幅を広げるには、実務を経験している人と関わ

かできる

その部分

だ。世代

ことは難

はないか

課題とは。

「人手不足は課題として認識している働き方改革などにより、現場を含めて余力がない。スピード感を持って、ジョブローテーションなどを行い、経験を積んでほしいところだが、人手不足がネックとなり、まだ思うようには進んでいない。そのためにも事務所をリニューアルし、採用面で生かしていきたい」

――従業員に求めることは。

「現場、営業に関係なく、事

――今後の設備投資案件については。

「水島営業所（岡山県倉敷市）はリニューアル工事中で、今後は衣浦工場（愛知県碧南市）の事務所のリニューアルを計画している。老朽化している事務所に根差した取り組みの一環としては順次リニューアルを進めていく、アフターサービスなど細かて、耐震補強・防音・防じん対点の設備投資を全面的にバックアップしていきたい」

更新も兼ねて工場も含めたリニューアル工事を実施した。生産性と作業環境の向上を図るべく、工場では主力設備であるギロチンを入れ替えた。付帯設備にオリジナル性を持たせ、加古川工場の特性を生かすような設備更新を行った。加えて、地域に根差した取り組みの一環としては順次リニューアルを進めていく。

率・収益性・コンプライアンスなど、さまざまな観点から取り組む必要があり、各拠点と一緒になって進めていきたい」

「設備や機械の更新や増強は設備（機械）メーカーの強みと各拠点の強みがマッチしたモノを選定していく。価格だけでなる。設備投資は安全・作業効

転載・複製を禁じます